

## このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

## 日本の経常赤字転落を防ぐ鍵は、外国株投資

かつて貿易黒字大国を誇った日本ですが、ついに、2011年は31年ぶりに貿易赤字に転じました。この赤字転落には、東日本大震災やタイの洪水、原発事故の影響など、2011年の特殊事情がありますが、どうも、この貿易赤字は定着しそうな雲行きです。

貿易収支の赤字が続くと、次に懸念されるのは、いつ経常赤字になるかです。経常収支が黒字であれば、国全体でお金が余っている状態なのですが、予想以上に早く3.4年後の2010年代半ばには赤字に転じるとの予測も出ています。

経常収支が赤字に転じるとはということかという、政府が新たに借金を場合に、国内だけでは足りず、海外に頼らなくてはならないということ。海外の投資家が日本の国債を買う場合に、1%の低金利ではとても受け入れず、ずっと高い金利を要求してくるでしょう。経常収支の赤字転落は、国債暴落のトリガーになる可能性もあるのです。

それでは、経常収支赤字化を防ぐために、われわれはどうしたらいいでしょう。貿易収支の赤字を埋め、経常収支を黒字に保つには、経常収支を構成する所得収支の黒字を拡大する必要があります。所得収支は、海外からの配当や利子収入です。これまでも黒字を保ち、経常収支黒字に大きく貢献しているのですが、今後、さらに所得収支の黒字拡大が、重要になってきます。

日本の所得収支の黒字は、外国債など債券の利子収入に大きく偏っていて、昨年1~10月の黒字額の5割を占めて

います。また、海外からの配当収入の源泉となる対外直接投資の過去からの蓄積は、欧米に比べて大幅に低い水準に止まっています。10年末の対外直接投資残高を名目GDP比でみると、日本は15%どまり。英国は75%、ドイツは43%、米国も33%で、日本の出遅れは明らかです。収益性も課題で、10年の日本の対外直接投資の収益率は4.6%で、米国の8.9%、英国の7.5%に大きく見劣りします。(日経)

そこで、われわれが行なうべきことが見えてきます。「個人金融資産や年金などの公的資金を、もっと外国株投資に向けよう!」ということです。現在は世界的な低金利で、利子収入は伸びません。長い目で見て資産を効率的に増やせるのは、やはり株式です。株価の上昇のみならず、配当収入の拡大が期待できます。中国やシンガポールなどの政府系ファンド(ソブリン・ウェルス・ファンド)による株式投資も、日本は大いに参考にすべきです。



98%が円資産になっている個人金融資産の外国株投資拡大やソブリン・ウェルス・ファンドの創設、年金資金の外国株投資率のアップなどにより、対外株式投資を拡大し、配当収入の拡大を図ることが、経常黒字維持を迫られる今の日本に必要なのです。

## 徹底説明と再発防止策を求める。

### -AIJ投資顧問事件が浮び上がらず様々な膿み

今回の2000億円の企業年金資金の大半が消失したAIJ投資顧問の事件は、まさに衝撃的です。年金運用は、多数の一般の人たちの大切なお金を運用して、老後の生活を支えるものです。AIJ投資顧問は、地域の中小企業124の企業年金の資金を運用していて、中には、大半を投じた企業年金の例もあるといえます。そして、これらの企業年金が大切な老後資金となる人たちが、年金の加入者です。



この事件は、日本の年金運用システムをめぐるさまざまな問題点を白日の下に出したといってもよいでしょう。企業年金の受託者責任、運用の執行、管理をする信託銀行の機能、タックスヘイブンの私募投信を年金運用に使う妥当性、金融監督・規制当局の検査体制など、このような事件の再発防止のためにも、徹底して問題点を洗い出して、しっかりとした対策を打つべきです。

一部報道によると、虚偽の好成績を謳い、数百億円もの巨額の成功報酬を懐にしたとも言われています。今後2度とこのようなことが起きないように、事件を起こした当事者は厳罰という形で処するべきです。

**今月の言葉:** ネットワーク時代になり、電子メールやiChatでアイデアが産み出されると思われがちだ。そんなばかな話はない。創造性は何げない会話から、行き当たりばったりの議論から生まれる。-スティーブ・ジョブズ



弊社から皆様への情報提供ソース:

びとうファイナンシャルサービス公式ホームページ

<http://www.bfsc.jp>

びとうファイナンシャルサービス公式ブログ

<http://ameblo.jp/bitofinancialservice/>

毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

書評ブログ-平日毎日更新

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

Web サイトもご覧ください  
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20

汐留ビルディング3階

電話: 03-6721-8386

携帯: 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール: info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを  
-びとうファイナンシャルサービスの大切な役割

### 経済を勉強しても、それを元に投資してはいけない。

経済の勉強をすることは、大変よいことだと思います。勉強したあと「あー、こういうことだったのか。」とあらためてわかることが多いのも、事実です。中央銀行の金融政策や政府の景気対策などが、どのように経済や金利、為替に影響してくるかは、株式投資をする上で、大変重要なチェック項目と捉えることでしょう。

例えば、5年、10年という期間、あるいは人生の時間軸と同じといってもよいでしょう。このため、株式投資をするのに、あまりに経済に重点を置くと、投資スタンスが比較的短期志向になりがちで、売買も頻繁に行なうようになり、本来得られるリターンが少なくなり、むしろリスクが高い投資手法になりがちです。

しかし、それを実際の投資に利用することは、危険です。なぜなら、これらの対策によってどう経済が動くかを検討しても、たとえば金融政策が出される都度、一瞬でマーケットは織り込みにかかるので、その政策に沿った投資をしようとしても、すでに遅いのです。

そもそも企業は何十年続くゴーイング・コンサーン(継続的存在)であり、時々の揺れ動く経済を判断して、投資するものではないのです。したがって、経済の勉強をすれば、投資で人より優位に立つと考えるのは早計です。むしろ、あまりにも経済知識に依存しすぎて、危ない方向に走ってしまう危険性を内包しています。

また、すぐに織り込まれたあと、この金融政策によって、今後金利や為替がどう動くかを見通すとしても、ここからは、予測困難な世界に入ります。いわば当たるも八卦、当たらぬも八卦の状況です。弱気もあれば強気もあるという百家争鳴の世界なのです。

そこで、株式投資の臨み方は、企業を分析し、その経営を評価し、株主還元状況をチェックし、株価としての割安度を判断し、本来の企業価値より株価が割安と判断すれば、買うというスタンスを堅持すべきです。株式投資は、企業に投資するのです。経済に投資するではありません。

さらに、景気対策や金融政策は、時間軸の面からは、長くて2~3年、短ければ1年以内の効果を見込めるものですが、株式投資は本来もう少し長い時間軸で見るべきものです。た



## 第13回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』開催！

### -こうすればセカンドライフを豊かに過ごすことができる-

混迷の世の中、本当のことを知ることが難しくなっています。特に資産運用は、情報があふれかえり、中でも手数料収入を何とか取り込もうとしてリスクの高い金融商品売り込む金融機関や証券会社、FX会社、商品先物会社の営業活動は激しくなっていて、利用者が本当に正しい資産運用の方法を学ぶ機会は、大変限られています。

これからの人生は、国の制度や周囲に頼ることはできません。自分でしっかり判断して、人生を切り開いていく必要があります。資産運用もまさにその通り。このセミナーで、人生を安心して過ごすことができる「正しい資産運用法」を、ぜひ学んでください。きつかけがない時間となることでしょう。

～参加無料 限定10名～

日時：2012年3月24日(土) 15:00～17:00

場所：TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml>

(最寄り駅：有楽町・日比谷駅)

申し込みは、下記メールまたは電話にて「3月24日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール： [info@bfsc.jp](mailto:info@bfsc.jp)

Tel: 03-6721-8386

講師：尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

講師プロフィール：

米国CFA協会認定証券アナリスト、CFPR、日本証券アナリスト協会検定会員、1級FP技能士、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーとして、個人の金融資産や退職金の運用助言・ライフプランニングサービスを提供する。2000年当社設立。グローバルな投資理論や外国株投資・国際分散投資への造詣が深い。日本経済新聞、週刊東洋経済、日経マネーなどへのコメント多数。日経CNBCにもたびたび出演。著書に「いまこそ始めよう 外国株投資入門」日本経済新聞出版社。投資助言・代理業として関東財務局登録。



#### ◆ このセミナーで「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」がわかる！ ◆

30年以上の経験と資産運用の頂点の資格を持つ、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザー尾藤 峰男だからこそ語ることのできる「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します。

日本の将来が不透明で、先行き閉塞感がつの中、老後や家族の将来はどうなるか、一人で考えめぐねていても、解決の糸口はなかなか見つかりません。

証券会社や銀行に相談しても、本当に役に立つ情報は提供してくれません。自分たちが売りたい商品のための情報しか話さないのです。

一度きりしかない人生を幸せに生きるために、資産運用で失敗はできません。金融機関から完全独立で、お客様の利益を最優先におくびとうファイナンシャルサービスだからこそお話できることがあります。土曜の午後のひと時を、「本当の資産運用とは」を学び、セカンドライフを豊かに過ごすために使ってみませんか。